

ループリック名称

事前学習, 水剤

アウトカム  
 処方せんより必要な情報を収集し, 調剤量を計算し, 適切な器具, 水剤投薬瓶を選択し, 清潔に配慮した内用液剤の調剤ができる.

具体的パフォーマンス	4	3	2	1
処方せんから患者情報を収集できる	ラベルに必要な事項を れなく記載できる		情報が欠けているが, ラベルを作成している	ラベルを作成する必要性 を認識できている
処方せんから調剤量を計算できる	処方せんから交付量を 計算でき, 1回服用量を 正確に計算できる	処方せんから交付量を 計算でき, 必要に応じ, メスアップする水量を計 算できる	薬瓶に記載されてい る%などを見て, 計算 できる	1回量, 1日量を計算でき る
調剤に必要なサイズの メートグラス, 投薬 瓶を選択できる	計算した秤取量から適 切なメートグラス, 投薬 瓶を選択できる			調剤に複数のメートグラ スを用いている
清潔に配慮した調剤 ができる	調剤前に事務作業を終 了でき, 調剤が清潔行 為であることを理解して調 剤できる	調剤終了後にラベルや 投薬瓶にマークをし, 調 剤が清潔行為であること を意識できる	調剤中に, ラベルや投 薬瓶にマークするなど の行動をするが, 調剤 を完了できる	処方せんを読み, 調剤で きる

注; 別紙水剤チェックシートも評価参考にする

別紙：水剤チェックシート

**【計算】**

秤取量を正確に計算できる

**【ラベル（薬札）の作成】**

ラベル（薬札）を適切に記入する

**【秤量】**

適切な投薬瓶を選択する

秤量前にメートグラスを洗浄する

処方薬を正しく選ぶ

（三回確認；取り出すとき・計るとき・しまうとき）

処方薬を正確に秤量する

（メニスカスを取っている，シロップ瓶の口をメートグラスに接触させない）

必要に応じ，常水または精製水で適切にメスアップする

調剤後の自己監査を行う

（全量確認，異物の混入の有無）

メートグラスを洗浄する

時間内に終了する

実務実習事前教育3(四宮担当分):評価基準

具体的パフォーマンス	A	B	C	D	E
技能(技能に関する知識を含む)	当該実習の到達目標水準を上回り、かつ、学生自身が工夫を加え、より優れたパフォーマンスを示すことができる。	当該実習の到達目標水準を上回り、かつ、学生自身が工夫を加えているものである。	知識および技能のレベルが、当該実習の到達目標水準を上回っている。	技能レベルは低いが、知識としては基本事項を理解できている。	参加はしているが取り組みが不十分である。
態度・積極性	発言等の積極性があり、他の学生の教育的効果向上にも繋がる態度・積極性を示すことができる。	発言等の積極性があり、態度・積極性が、当該実習における標準レベルを上回っている。	態度・積極性が、当該実習における標準レベルに到達している。	身だしなみは適切であるが、積極性が不十分である。	参加はしているが、身だしなみが不適切である。
プレゼンテーション	プロダクト・発表内容・質疑応答がともに、当該授業の目標レベルを上回り、かつ、他者の発表・発言に対しても積極的に学生自身の意見を述べることができる。	プロダクト・発表内容がともに、当該授業の目標レベルを上回り、かつ、質問に対し適切に回答できる。	プロダクト・発表内容がともに、当該授業の目標レベルを上回っている。	スライド等のプロダクト内容は十分であるが、口頭説明が不十分である。	スライド等のプロダクトは、時間内に完成しているが、取り組みが不十分である。
レポート	授業の本質を理解した上で、自分の考えも加え、うまく考察できている特に優れたレポートである。	授業内容の本質を理解した上で、量・質ものに十分な優れたレポートである。	レポートの内容は十分であり標準的なものである。	レポートの内容は不十分であるが、量は記載できている。	白紙ではないが量・質ともに不十分である。

実務実習事前学習－薬剤の調製（計数調剤）：評価基準 2015

	到達レベル	3	2	1	0
薬剤の調製（計数調剤）	処方確認 （項目A）	処方せん記載の薬剤の薬効を理解できる。服薬指導する際に注意すべき事項を確認でき、禁忌や相互作用も合わせて処方内容を把握できる。	処方せん記載の薬剤の薬効を理解できる。服薬指導する際に注意すべき事項を確認できる。	処方せん記載の薬剤の薬効を理解できる。	処方せん記載の薬剤の薬効を曖昧にしか理解していない。
	薬袋作成 （項目B）	薬袋を適切に素早く丁寧に作成できる。薬袋の記載事項を処方せん及び調剤薬と照合し、確認できる。	薬袋を適切に素早く丁寧に作成できる。薬袋の記載事項を処方せんと照合し確認できる。	薬袋を適切に素早く作成できる。薬袋の記載事項の確認ができる。	薬袋を適切に作成できる。
	薬剤取り揃え （項目C）	薬剤の取り揃えが円滑に素早く行える。錠剤シートなどに破損・汚れが無いかを確認している。その際、処方せんと照合しながら薬剤名、薬剤の数量を確認している。	薬剤の取り揃えが円滑に素早く行える。錠剤シートなどに破損・汚れが無いかを確認している。	薬剤の取り揃えが円滑に素早く行える。	薬剤の取り揃えは行えるが、ぎこちなさを感じられる。
	薬剤入れ込み （項目D）	薬剤名を口頭で確認し、正しい数量の薬剤を対応する薬袋に間違いずに入れる。その際、処方せんと照合しながら薬剤名、薬剤の数量を確認している。	薬剤名を口頭で確認し、正しい数量の薬剤を対応する薬袋に間違いずに入れる。	正しい数量の薬剤を対応する薬袋に間違いずに入れる。	薬剤を対応する薬袋に間違いずに入れているが、薬剤の数量が間違っている。

実務実習事前学習－調剤薬監査：評価基準 2015

	到達レベル	3	2	1	0
調剤薬監査	処方せん確認 (項目A)	処方せん記載の患者氏名と性別、年齢、並びに、医療保険番号等と処方せん有効期限を確認できる他、処方日数から最終投薬日を把握できる。	処方せん記載の患者氏名と性別、年齢、並びに、医療保険番号等と処方せん有効期限を確認できる。	処方せん記載の患者氏名と性別、年齢、並びに、医療保険番号等を確認できる。	処方せん記載の患者氏名と性別、年齢を確認できる。
	薬袋確認 (項目B)	薬袋の患者氏名、薬袋番号、用法用量を適切に素早く口頭で確認できる。その際、処方せんと照合しながら薬剤名、薬剤の数量を確認している。	薬袋の患者氏名、薬袋番号、用法用量を適切に素早く口頭で確認できる。	薬袋の患者氏名、薬袋番号、用法用量を適切に素早く確認できる。	薬袋の患者氏名、用法用量を適切に素早く確認できる。
	薬剤確認 (項目C)	薬剤の商品名、剤型、規格を適切に素早く口頭で確認できる。その際、処方せんと照合しながら薬剤名、薬剤の数量を確認している。	薬剤の商品名、剤型、規格を適切に素早く口頭で確認できる。	薬剤の商品名、剤型、規格を適切に素早く口頭で確認できる。	薬剤の商品名、剤型を適切に素早く口頭で確認できる。
	過誤発見 (項目D)	薬袋の記載および薬剤の数量、破損に関する過誤を適切に素早く発見し、口頭で説明できる。	薬袋の記載および薬剤の数量、破損に関する過誤を適切に発見し、口頭で説明できる。	薬袋の記載および薬剤の数量、破損に関する過誤を適切に発見できる。	薬袋の記載および薬剤の数量、破損に関する過誤を片一方しか発見できない。

ルーブリック名称 :SGDリスクマネジメント

アウトカム

臨床現場におけるリスクマネジメントを理解し、その対策を講ずることができる

具体的パフォーマンス	キャップストーン	マイルストーン		ベンチマーク
	4	3	2	1
医療事故発生の条件についてグループ内で吟味している	テーマに沿った医療事故の条件を効率よく情報収集して情報共有のための議論ができている	テーマに沿った医療事故の条件を情報収集して情報共有のための議論ができている	テーマに沿った医療事故の条件を情報収集しているが情報共有のための議論ができている	テーマに沿った医療事故の条件を効率よく情報収集できていない
医療事故発生の背景・事情・要因について分析している	医療事故発生の背景・事情・要因について建設的な分析ができている	医療事故発生の背景・事情・要因について分析ができている	医療事故発生の背景・事情・要因についてある程度分析ができている	医療事故発生の背景・事情・要因について分析できていない
既存の医療事故防止対策方法を調査し、的確なリスクマネジメントを提案できる	既存の医療事故防止対策方法を調査し、すべてのテーマに対する具体的なリスクマネジメントを提案できる	既存の医療事故防止対策方法を調査し、4つ以上のテーマに対する的確なリスクマネジメントを提案できる	既存の医療事故防止対策方法を調査し、的確なリスクマネジメントを提案できる	既存の医療事故防止対策方法を調査し、リスクマネジメントを提案できない
SGDの結果をホワイトボードにまとめ、わかりやすく発表できる	SGDの結果をホワイトボードにまとめ、工夫してまとめられ、わかりやすく発表できている	SGDの結果をホワイトボードにまとめ、わかりやすく発表できている	SGDの結果をホワイトボードにまとめ、発表できている	SGDの結果をホワイトボードにまとめ、わかりやすく発表できていない